＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

事業所番号	2372001111
法人名	医療法人　光生会
事業所名	グループホーム　エバグリーン
訪問調査日	平成　20　年　3　月　26　日
評価確定日	平成　20　年　4　月　18　日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成　20年　3月　28日

【評価実施概要】

事業所番号	2372001111
法人名	医療法人　光生会
事業所名	グループホームエバグリーン
所在地	〒441-0021 愛知県豊橋市多米町大門10番地（電　話）　0532-62-4434

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地　N203号室		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月18日

【情報提供票より】20年2月22日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14　年　　1　月　　24　日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　　27　　人
職員数	30　　人	常勤　23人、非常勤　6人、常勤換算　25.3人

（2）建物概要

建物構造	鉄　　骨　　造り
	3 階建ての　　1 階　～　　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	22,778　　円外税		その他の経費（月額）	48,000～60,000　円
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または　1日当たり　1,200　円			

（4）利用者の概要（　1　月　24　日現在）

利用者人数		27 名	男性　6 名	女性	21 名
要介護1		2　名	要介護2	7	名
要介護3		9　名	要介護4	5	名
要介護5		4　名	要支援2	0	名
年齢	平均	85.8 歳	最低　69 歳	最高	98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人光生会病院、多米恒川歯科、小笠原歯科、介護老人保健施設赤岩荘

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『いつまでも若々しく』との想いから、常緑樹を意味してなづけられた「グループホームエバグリーン」は、豊橋市の東の山のふもとにあり、静岡県境にも近く、自然いっぱいの温暖な所にある。旧赤岩病院を改修したホームは、併設の介護老人保健施設赤岩荘・デイサービス・地域包括支援センター・ケアプランセンターがある。そのため、安心・安全にゆったりと暮らしを楽しみながら、その人らしく自己実現できることを約束されたグループホームであり、地域に密着した生活の場にもなっている。また、開設7年目を迎え、地域の人々への存在感が根づき、豊橋市においても複合介護施設内で初めてのモデルケースとして、注目される先駆的な役割を担ったグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

自己評価から職員全員が意見を出し合い、利用者の高齢化、重症化に向けての日常ケアを省みて、質の向上を目指した。事故は減り、気づきができるようになり、それは評価による成果と実感している。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

各々の職員が、自己評価をテキストとしている。また、グループホームの年間目標について、各個人が目標を立て、3か月毎に評価して話し合い、自己研鑽により職員間での価値観の共有ができるようになった。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、2か月に1回開催され、これまでに12回行われている。法人関係者以外に、地域の代表者・福祉関係者・家族や利用者の代表等のメンバーにより、事業者の一方的な報告に終わらず、参加者に施設内ユニットを見てもらい、活発に発言できるように心掛けている。ホームは、利用者のためだけでなく、地域に密着したホームを目指し、社会資源としてのホームづくりについて話し合われている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

「エバ通信」を発行して、利用者の写真を入れ、日頃の暮らしぶりを毎月報告している。金銭管理については、家族の来訪を促して報告確認のサインをもらうようにしている。また、年2回、5月と9月には、家族交流会を開催して、巻きずし等を作りながら、和やかな雰囲気の中で、地域密着の説明をしたり家族からの思いを聞き出して、話し合える機会を作っている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

町内会へは、医療法人光生会として入会している。社寺参拝、朝市、施設周辺・参道の草取り、ゴミ出しの時等に、利用者及び職員は、地域の人たちへ積極的に挨拶している。あいトピア、市民会館イベント時には、作品を出展する利用者もある。また、近隣住民との交流の場として、桜の季節に、施設の玄関付近で、ちらし寿司、甘酒を用意し、福祉バザーを開催している。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作っている。理念の作成については、ホームを開設する前から、介護教室等を通じて、「その人らしく自己実現できる援助」と、やわらかでわかりやすい言葉で伝えている。それは、利用者と職員の為でなく、地域の社会資源とすることが地域密着型のグループホームであるとする運営理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念があることは、職員全員が知っており、毎日確認をしている。利用者が、毛筆で書いた「その人らしくその人らしく」の文章を額に入れて、玄関に飾られている。利用者へは、「ここが我が家だよ」と、上手にその気にさせるのがプロであると、職員間で話し合い、日々のケアに役立てている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりを大切にしており、近くの社寺の清掃、校区の小学校の運動会、中学校体育祭、文化祭、保育園の誕生会、福祉バザーなどにもよく出かけている。当ホームも地域住民向けに、数回バザーを開催している。町内会には、運営法人として加入し、地域との合同防災訓練を定期的に実施している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組みがされている。自己評価項目を基にして、職員が各々目標を立て、3か月毎にモニタリング成果を話し合う。自己研鑽により、価値観の共有が生まれ、気づきの機会となり、職員全員の意見が出せるようになってきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催され、12回行われてきた。校区会長、民生委員、住民代表（元民生委員会長・市会議員）老人クラブ会長、豊橋市介護相談員、地域包括支援センター、家族・利用者代表、併設の施設管理者（医師）等により グループホームとして行う各種行事、ボランティア、介護教室、実習生受け入れ、地域住民との関わりについて活発に話し合っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議には、毎月介護相談員、地域包括センターの職員の参加があり、運営の実態を報告して共有・協働している。その会議の他にも、市町村担当者と、緊急性の高い、即入所が必要な利用者について検討したり、利用期間延長者等についての相談をしている。また、市からの要請で、認知症サポーター養成講座の講師を務め、福祉を目指す人々への先導者として役目を担っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、日常の暮らしぶりや記録の写真を入れて、読みやすくした「エバ通信」を家族へ送り、月に一度は、家族の来訪を促して月間評価（記録類）にサインを求めている。排泄・入浴等の日常ケア状況の確認及び利用者の体調について、家族と職員で話し合う機会を作っている。金銭管理についても確認を求めている。ホームへの来訪が困難な家族には、出納簿のコピーを送り、利用者の状況を電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に、苦情受付窓口を設置している。家族が来訪した時や電話で、気軽に職員に意見が言える雰囲気や態度をつくるようにしている。また、年2回（5月と9月）の勉強会や座談会で、家族と一緒に巻きずし等を作りながら、ホームへの家族の思いや意見を聞き出せる機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代については、ホームの都合でなく最小限に抑え、生活環境を変えないように引き継ぎを充分に時間をかけて行い、利用者に不安を与えないための努力をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	エバグリーン独自の新入職員研修、内部・外部研修計画及び自主研修体制がある。職員は、積極的に研修へ参加して、受講後も報告及び伝達講習をする時間が確保されている。資格取得についても、教材の貸出し、シフトの工夫、実技の実際を互いに学び合える配慮がされており、全ての職員は有資格者で対応している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レクリエーションの活発な施設へ職員が研修に出かけたり、西三河地区のグループホームからの見学を受け入れたり、他同業者との意見交換、技術交換は活発に行われている。「愛知県グループホーム連絡協議会及び相談員会・東三河相談員会」に加入している。	○	愛知県グループホーム連絡協議会での研修や交流を深めるとともに、東三河地区での研修会を積極的に押しすすめていくことに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用者が、自らグループホームへの入居を希望されたり、介護老人保健施設入所者が、グループホームを体験後、本人及び家族の納得のうえ、入居を決定する人もある。その時には、利用者、職員との相性も充分検討して、家族と相談しながら決めている。安心してくつろげる場所であることを知ってもらうよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一人ひとりの性格や特徴や個性を尊重して、職員間で情報を共有し、利用者の持っている能力を把握しながらケアに取り組んでいる。食事準備、後片付け等、その人らしく、その人の状況に合わせ、職員は声かけをしながら、さり気なく対応している。職員も利用者から、季節ごとの行事や風習、菜園のこと等を学ばせてもらっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張や本人の希望については、その言動から把握し、職員はその都度聞いたこと、感じたこと、思ったこと等を互いに連絡ノートから情報を取り入れて共有している。日々の関わりの中で、本人の満足に近づけるよう（自己実現）に支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	思いや意向の把握のための連絡ノート（個別ノート）は、職員全員が共有可能な情報であり、それを基に、月1回開催のユニット毎の会議及び月1回のグループホーム全体会議での内容と合わせ、毎朝のミーテングによる情報把握により、実践可能な具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット毎でつくられた介護計画は、日々モニタリングを行っているが、見直しやプランの変更が生じたときは、その都度検討している。本人の希望、家族の希望を取り入れ、現状に即した介護計画へ作り直している。変更後の介護計画は、必ず家族の確認を得るようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内に、地域包括支援センター、ケアプランセンター、デイサービス、老人保健施設があり、法人内には医療(病院)も完備している。医療・保健・福祉の相談にも、即緊急対応できる体制がある。介護教室を開催したり、研修生・実習生も多数受け入れている。ホーム内に家族が付き添っての宿泊も可能としたり、受診介助が必要な時には、職員が付き添う等、柔軟な支援もしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医以外のかかりつけ医への受診については、職員が付き添い同行している。異常の早期発見、観察に努め、家族の意向を確認しながら、医療機関との支援体制を作っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師が入院を必要とした場合、誤嚥性肺炎の危険が生じてきた場合には、グループホームでの対応が限界であることを、随時説明している。本人、家族が、ホームでの生活の継続を強く望まれた場合は、遠方から家族が利用者へ付き添って対応されたこともあった。	○	職員は、ホームにおいて、重度化や終末期における対応について、死の看取りでなくても、ターミナルケアとしての協力（地域での暮らしを援助する場としてのグループホーム）について、引き続き取り組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会時に家族は、面会記録ノートへの記入ではなく、メモ紙に氏名を書いて、面会ボックスへ入れるようにしている。個人情報保護法について研修を繰り返し行い、徹底するようにしている。利用者の名前や写真を掲載して良いか、取次や表札はどのようにするか等、入居時に同意を確認し、サービス利用中には、研修事例や業務日誌に記入する時、イニシャルを使用するなど工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活にメリハリをつけるため、一日の流れはあるものの、家庭での生活同様、利用者の体調に合わせ、生活リズムやペースを尊重しながら、自己決定を基本方針として、個別性のある支援が行われている。食事にかける時間、就寝時間等は自由である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、管理栄養士が作成している。利用者と職員が、そのユニット毎で話し合うため、同じ食材を使うものの、惣菜は調理法が異なるため、違った料理になる。おやつ作りもその日に収穫した鶏の卵を使ってケーキ作りをしたり、ねぎをたくさん入れたお好み焼きにしたり、準備や後片づけも一緒に楽しみながら作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	レクリエーションの都合で、午前中が入浴時間ということも時にはあるが、基本的に午後1時半から4時半迄、毎日入浴できるようにしている。入浴を拒む時は、明日に約束したり、気の合う利用者同士が誘い合って、デイサービスの大浴場へ入れるように促したり、清拭・足浴から入浴へ促したり、気分良く楽しい入浴の雰囲気づくりに努力している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、力を活かした役割、楽しみごとの気晴らしの支援をしている。月1回、打ち放しゴルフ、魚釣りや音楽会、毎日囲碁を楽しむ人、花の植え替え、野菜作りをする人、書道の得意な人には、行事の看板を書いてもらっている。また、中学生が実習に来た時は、一緒に散歩をする人等、その人その人らしい暮らしぶりを楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物は、利用者にとって楽しみであり、レクリエーションのひとつとして、積極的にその機会を作るようにしている。歩いてコンビニに行ったり、ドラッグストアへ車を出して連れ立って行く、すぐ近くの寺周辺への散歩、朝夕のゴミ出しも、外出の機会であり、理美容院や保育園の誕生会へも日常的に出向いている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設のデイサービスが毎日行われており、外からは入れるが、ホームから出る時は電子錠で開錠するようになっている。エレベーターの乗降は自由にでき、老人保健施設へは自由に行ける為、おやつを買いに行く人もある。外出したい様子を察知した時は、職員が声をかけて寄り添い外出するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老人保健施設と合同で年1回、ホームでも防火管理者が計画して、年2回以上は昼夜防災訓練を行っている。備蓄については3日分を確保している。また、昨年は土砂災害を想定し、職員と利用者が、決められた地域の人たちの集合場所へ行く訓練を地域ぐるみで合同で行った。	○	災害時、物資については、業者が調達する体制を取っているが、非常時の輸送路が確実に保証されないため、施設内での確保も望みたい。また、施設内へ地域住民の避難場所としても検討されるように望む。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて、ミキサー食や刻み食に調理し、必要な栄養や水分が取れるように工夫している。フロアーのテーブルの上には、いつもお茶が自由に飲めるように準備してあり、入浴後も水分補給を促している。好みによって、紅茶、コーヒーで砂糖の必要な利用者にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、たくさんの草花が植えられてあり、利用者の作品、季節の飾りに優しさが伝わる家庭的な雰囲気に配慮している。職員の顔写真が玄関へ入ってすぐに張ってあるので、家族や近くの住民は訪ねやすく工夫している。昼食のカレーの匂いや、おやつ作りの匂いがしている同じフロアーに居間と台所があるため、いつも職員と一緒に、その共用空間での生活を安心して過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中から、使用していた品々や馴染みの家具を持ち込み、引き続き愛用している。茶碗、はし、ミニタンス、テレビ、電気毛布、姿見三面鏡、夫や家族やひ孫の写真を飾っている人、ベットは利用者が使い勝手の良い型式の物を家族や職員により準備されている。好みにより畳の部屋もあり、安心してくつろげる居心地の良い居室となっている。		